

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	184人	社会	184人	数学	184人
	理科	184人	英語	184人		

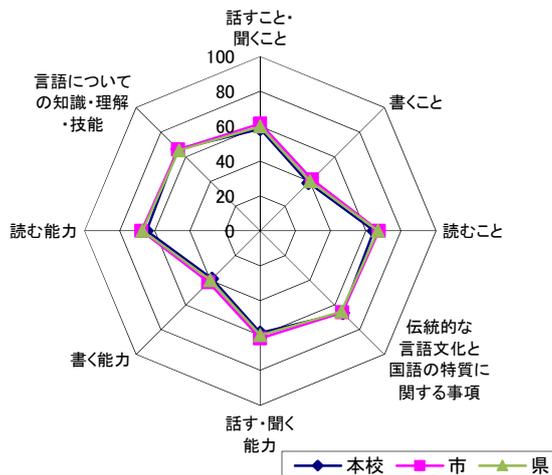
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	58.4	61.6	59.9
	書くこと	38.8	41.7	40.1
	読むこと	64.7	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.4	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	58.4	61.6	59.9
	書く能力	38.8	41.7	40.1
	読む能力	64.7	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	66.4	66.1	65.4



★指導の工夫と改善

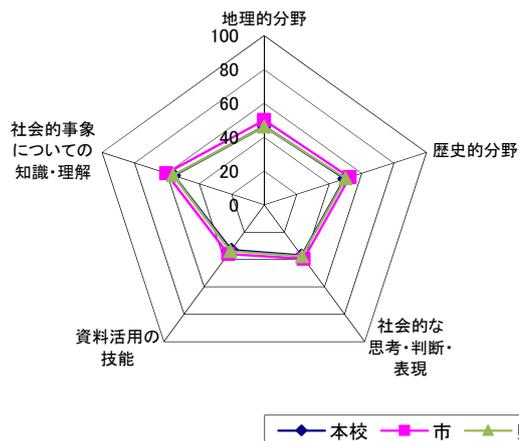
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は県・市の平均を下回っており、県-1.5ポイント、市-3.2ポイントとなっている。</p> <p>○選択式のため、無解答率は比較的低く、前向きに考えて解答する様子が見られる。</p> <p>○相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめることにおいては正答率が93.0%と高く、県・市の平均正答率をわずかに上回っている。</p> <p>●話し方・聞き方の理解において市との差が-5.8ポイントと大きくなっている。</p>	<p>・授業において、全員が声を発する場や意見発表をする場を意識的に設ける。</p> <p>・話し合い活動を適切に設けながら、友達同士で発表や話し合いの評価をする活動を取り入れ、よりよい話し合いができるような意識付けをしていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は県・市の平均を下回っており、県-1.3ポイント、市-2.9ポイントとなっている。</p> <p>○カードを基に言葉をつながげながら鑑賞文を書くことにおいては県・市の正答率を上回っている。</p> <p>○選択式の問題は無解答率が低く、前向きに考える姿勢が見られる。</p>	<p>・自分の考えを言葉で書かせる活動を増やしていく。</p> <p>・説明的文章や文学的文章を丁寧に読み解きながら、自分の意見や読み取った内容を書き表す活動を計画的に設定することで、「書くこと」への抵抗を減らしていく。</p> <p>・授業で書いた内容をお互いによく読み合ったり、教師が励ましや賞賛を与えて良い内容を紹介したり、他人の表現を真似したりすることで、「書く意欲」や「書く能力」を高めていく。</p> <p>・穴埋め形式などで文章の書き方や答え方のパターンを定着させ、記述式の問題でもあきらめず取り組めるようにする。</p> <p>・まずは表現したい内容を考えて、次にそれを正確に書けるよう、短文作成などから授業中の活動に組み入れ、指導していく。</p> <p>・初見の感想や単元末での感想など、自分の考えを言葉にする機会を増やし、表現力や語彙力の向上に役立たせたい。</p> <p>・振り返り活動の際に以前の自分との変化度を評価し、それを簡単に文章化させることにより、言語活動の充実を図る。</p>
読むこと	<p>平均正答率は県・市の平均を下回っており、県-2.3ポイント、市-2.9ポイントとなっている。</p> <p>○文学作品の表現の特徴を捉えることや描写や会話文を基に登場人物の心情の変化を捉えることにおいては、県・市の正答率を上回っている。</p> <p>●説明文の内容理解において文中の語句が指す内容を捉えることが苦手な生徒が多く、県-8.8ポイント、市-10.0ポイントと、県・市の正答率を下回っている。</p> <p>●文章の内容を整理し要旨を捉えることにおいて上位層と下位層の差が60.7ポイントと大きく、無解答率も25.6ポイントと高く、課題と捉えている。</p> <p>●目的に応じて要約したり要旨を捉えたりして読むことにおいては、短答式だったこともあり無解答率が30.2ポイントと高く、課題と捉えている。</p> <p>●描写や会話文を基に登場人物の心情の変化を捉えることにおいては記述式だったこともあり、無解答率も高い。</p>	<p>・文中の語句が指し示す言葉に注目させ、前後のつながりを見つけたり文章の整理ができたりするよう指導する。</p> <p>・文学作品においては、描写や会話文に注目させ、登場人物の心情の変化を捉えられるよう指導する。</p> <p>・説明的文章や文学的文章を丁寧に読み解きながら、自分の意見や読み取った内容を書き表す活動を計画的に設定することで、記述式問題に答えることへの抵抗を減らしていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は県・市の平均をわずかに上回っており、県+1.0ポイント、市-0.3ポイントとなっている。</p> <p>○漢字の読みは無解答率も比較的低く、分からなくても前向きに考える姿勢が見られる。</p> <p>○漢字の成り立ちにおいて、県+9.6ポイント、市+10.5ポイントと県・市の正答率を上回っている。</p> <p>●歴史的仮名遣いや漢字の成り立ちの問題に課題が見られる。</p>	<p>・漢字や文法は小テストを繰り返し行い、基礎知識の定着を図る。</p> <p>・文法・語法に関する知識は長期的な記憶が難しいらしくなかなか定着しないことが課題であるので、折にふれて復習し練習する機会を意図的に設ける。</p> <p>・漢字や古典など国語の知識に関するトピックを授業内で取り上げ、便覧で確認するなど、国語への興味関心を引くための方法を工夫していく。</p>

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	46.3	50.0	46.2
	歴史的分野	49.6	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	37.1	39.4	37.6
	資料活用 of 技能	32.9	35.9	33.8
	社会的な事象についての知識・理解	55.8	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

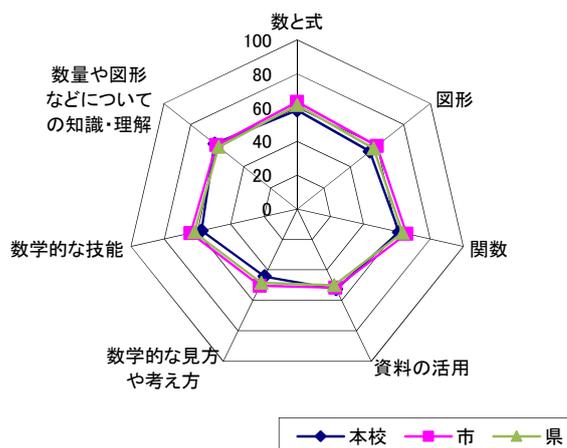
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>平均正答率は、県平均とほぼ同等であるが、市平均より3.7ポイント下回っている。</p> <p>○世界の地域構成において、適切な地図選択と示された地点の方位を答える問題が県・市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●世界の地域区分で、大陸名や州名の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に、前時の内容を毎回復習することで、前時学習内容の定着を確認する。 ・単元テストや定期テストにおいて、解き直しと反復練習を行うことで、基礎・基本の定着を図る。 ・視覚教材を効果的に用いることで、概念的にとらえやすくする。
歴史的分野	<p>平均正答率は、県平均とはほぼ同等であるが、市平均より3.0ポイント下回っている。</p> <p>○飛鳥時代以降の基礎・活用の正答率が県・市の平均より高くなっている。</p> <p>●縄文時代から古墳時代の基礎・活用の正答率が県・市の平均をやや下回っている。</p> <p>●歴史の捉え方において、だれが、いつ、どこで、活躍したのか、しっかりと押さえられていない。</p> <p>●記述問題の正答率は市・県の平均をすべて下回っている。また、無解答率が高く、課題と捉えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時代ごとのまとめにおいて、的確に時代観を押さえることで、時代ごとの特色を押さえられるようにする。 ・授業の内容のポイントを的確に伝え、意識させることで、内容をより容易に押さえられるようにする。 ・なぜ・どうしてと考える機会を授業において設けることで、過程と結果をつなげて考えられるようにする。 ・論述する機会を設けることで、文章を構築する力を身に付けさせていく。 ・写真や絵を用いて授業をすることで、概念的に物事を考えられるようにする。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	58.4	63.3	61.5
	図形	54.6	59.8	57.4
	関数	61.4	65.9	63.4
	資料の活用	52.6	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	44.2	50.4	48.5
	数学的な技能	57.6	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	61.9	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

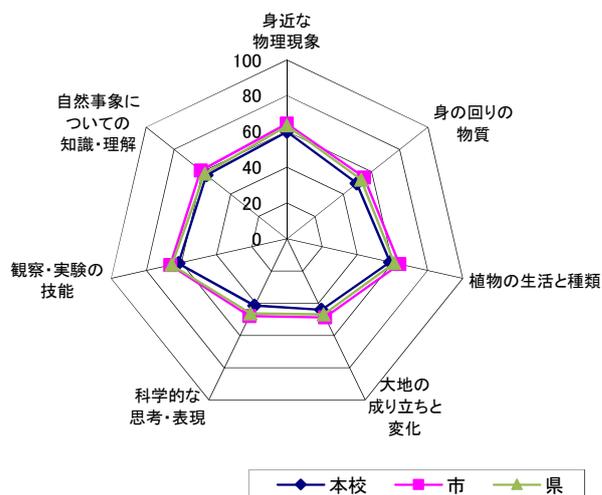
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、県平均より3.1ポイント、市平均より4.9ポイント下回っている。</p> <p>○自然数については正しく理解できている。</p> <p>○規則性に関する問題で、具体的な数でのときは答えを求めることができている生徒が多い。</p> <p>●分配法則が入った計算や数量関係から方程式をつくることに課題が見られる。</p> <p>●記述式で考えを説明するような活用の問題が苦手な生徒が多い。</p>	<p>・授業中や家庭学習において反復練習を行い、定着を図る。</p> <p>・自分の考えを言葉で書かせる活動を増やしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県平均より2.8ポイント、市平均より5.2ポイント下回っている。</p> <p>○円柱の展開図やねじれの位置についてはよく理解できている。</p> <p>●対称移動に関する知識を記述式で答える活用の問題や作図に課題が見られる。</p>	<p>・授業中や家庭学習において反復練習を行い、定着を図る。</p> <p>・パソコンなどの視覚教材を用いて、実際に移動を試みる。または、自分で移動させるなど体験的な活動も入れていく。</p>
関数	<p>平均正答率は、4技能の中で一番高いが、県平均より2.0ポイント、市平均より4.5ポイント下回っている。</p> <p>○グラフの読みとりは比較的よくできている。</p> <p>●グラフから比例の式を求めることや、お風呂に水を入れるなど具体的な場面から比例の式を求めることに課題が見られる。</p>	<p>・授業中や家庭学習において反復練習を行い、定着を図る。</p> <p>・表、式、グラフを関連付けて考え、理解させる。</p> <p>・具体的場面をパソコンで見せるなど、ICT機器を活用して理解を深めていく。</p> <p>・授業中の言葉で書く活動や説明し合う活動などを意図的に増やしていく。</p>
資料の活用	<p>平均正答率は、県平均より2.5ポイント、市平均より0.9ポイント上回っている。</p> <p>○度数分布表から情報を読み取ることや相対度数を求めることができる生徒は多い。</p> <p>●ヒストグラムから中央値を求めることや、ヒストグラムから情報を読み取り、自分の考えを説明することが苦手な生徒が多い。</p>	<p>・それぞれの代表値の意味をしっかりと理解させ、繰り返し計算を行う。</p> <p>・授業中において、言葉で書く活動や、意見交換を行う場面や、説明し合う活動を意図的に増やしていく。</p>

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	59.8	64.3	63.2
	身の回りの物質	49.6	54.8	52.8
	植物の生活と種類	58.7	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	44.1	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	41.5	48.0	46.4
	観察・実験の技能	61.7	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	57.1	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

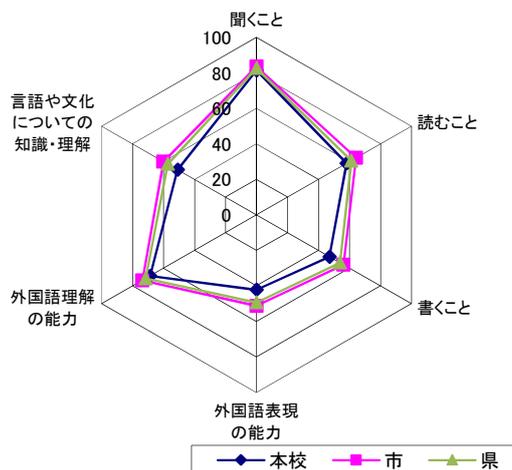
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<p>平均正答率は他の領域に比べて高いが、市平均に比べ4.5ポイント、県平均に比べ3.4ポイント下回っている。</p> <p>○レンズに入った光の進み方はよく理解できている。実験に加え、作図をしながら光の進み方について考えさせる活動を取り入れた成果と考えられる。</p> <p>●矢印を使って力の働きを表すことについて課題が見られる。</p>	<p>・実験結果をただの現象としてとらえるだけでなく、「どうしてそうなったのか」を考えさせる活動を充実させ、理解が図れるようにする。</p> <p>・「力の三要素」などの基礎的な知識を身に付けさせたいうえで、例題を数多く解かせるなどして定着化を図っていく。</p>
身の回りの物質	<p>平均正答率は市平均に比べ5.8ポイント、県平均に比べ3.2ポイント下回っている。</p> <p>○物質の状態変化については正答率が高い。身近な現象について、興味関心をもって学習に取り組んだ結果と考えられる。</p> <p>●現象や実験結果の根拠を文章記述によって説明する力がついていない。</p>	<p>・単なる記憶に頼る学習ではなく、学んだことを関連付けながら整理して知識を身に付けられるようにしていく。</p> <p>・実験結果のもつ意味を考えさせ、「なぜそうなったか」をきちんと理解、説明できるようにする。</p>
植物の生活と種類	<p>平均正答率は市平均に比べ5.7ポイント、県平均に比べ2.4ポイント下回っている。</p> <p>○顕微鏡の操作手順はよくできている。水中の微生物や植物の体のつくりなど、顕微鏡を使った観察の機会を多く作った結果と考えられる。</p> <p>●植物のなかま分けをすることについて課題が見られる。</p>	<p>・植物を分類するための視点など、基礎的知識をしっかりと押さえられるようにする。</p> <p>・顕微鏡の操作手順やスケッチの手法については、機会があるごとに引き続き指導していく。</p>
大地の成り立ちと変化	<p>4つの領域の中で最も平均正答率が低い。市平均に比べ4.7ポイント、県平均に比べ2.9ポイント下回っている。</p> <p>●地震のデータを活用して解く問題では、正答率27.6ポイントと低い。市や県の平均と比較すると10ポイント以上低くなっている。</p>	<p>・実験や観察をすることが難しい領域なので、視聴覚教材を効果的に取り入れるなど、学習への興味関心を引くための方法を工夫していく。</p> <p>・章末や単元末に問題演習を取り入れるなど、問題を多く解かせることで図やグラフの活用の仕方、データの持つ意味を理解できるようにする。</p>

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	81.5	83.6	82.6
	読むこと	58.1	64.2	61.2
	書くこと	47.1	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	42.2	51.2	49.4
	外国語理解の能力	68.7	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	50.9	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、すべての領域の中で一番高い。 ○イラストに合う単文の聞き取り、対話文の内容を把握する聞き取りはよくできており、平均正答率も9割を越えている。 ●スピーチのような、まとまりのある英語を聞き取ることに課題があり、市の平均正答率を6.3ポイント、県の平均正答率を3.4ポイント下回っている。</p>	<p>・生徒たちにより多くの英語を聞く機会を与えるため、クラスルームイングリッシュを多用したり、オーラルイントロダクションを英語で行っていったりという活動を継続していく。 ・授業中における教科書等の英文の音読練習を増やし、また、リスニング問題も定期的に取り組ませる。 ・ALTとのチームティーチングにおける教師同士の対話を通して、概要を聞き取らせたり、コミュニケーション能力を高める活動を効果的に行うことで、まとまりのある英文の聞き取り能力を高めていきたい。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を6.1ポイント下回っている。 ●雑誌の記事を読んで適切なタイトルを付ける問題や手紙文を読んで日時の確認をする問題の平均正答率が低く、市の平均正答率を約10ポイント下回っている。 ●2つの単文の意味から判断して、接続詞を選択する問題が、市の平均を13.0ポイント、県の平均を8.3ポイント下回っている。</p>	<p>・まとまりのある英文を読み取るための英単語力を身に付けるため、授業の帯活動としての単語及び基本文テストを継続して行う。 ・接続詞の使い方について、教科書の本文中での指導や問題演習により、理解を深めたい。 ・教科書の題材を増補する内容の英文を、語数の少ないものから徐々に語数の多いものへと移行させながら英文読解に挑戦させ、文の大意を把握したり要点をつかんだりする力を身に付けるよう指導していく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を9.1ポイント、県の平均を6.7ポイント下回っている。 ●買い物や道案内などのような、場面や条件に応じた英作文の平均正答率が、市よりも11.4ポイント、県よりも11.1ポイント下回っている。また、無回答率も3割近くあることが、課題である。</p>	<p>・文法事項に留意しながら、与えられた単語での並べ替え問題に多く取り組ませ、語順を意識して英作文ができるよう指導していく。 ・まずは、表現したい内容の英文が言える、次にそれを正確に書けるよう、授業中の活動に組み入れたり、ディクテーションで音と文字のつながりを身に付けていけるよう指導していく。 ・授業の後半や単元末にトピックを与えて、自由作文を繰り返し行い、表現力向上に役立たせたい。</p>

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分は家族の大切な一員だと思う。」と回答した生徒の割合は、市、県より数ポイント高い。良好な家族関係がうかがわれる。

●「学校の宿題はやりたくなる内容だ。」と回答した生徒の割合は、県・市より8.5ポイント低い。各教科のワーク等の課題の他に毎日「家庭学習ノート」を自主的に取り組む課題があるが、この取り組みせ方に工夫が必要である。

○「学校の宿題は自分のためになっている。」と回答した生徒の割合は93.0%で、市・県より数ポイント高い。家庭での学習に対して前向きであり、家庭学習ノートの継続は大切なことと考える。

○「物事を最後までやりとげて、うれしかったことがある。」と回答した生徒の割合は、県・市より6ポイント高い。達成意欲は高く、達成感を味あわせる授業構成や小テストに取り組むたい。

●「インターネット等を利用して、①勉強情報を得る、②ニュースを見る、③わからない国名や地名を調べる。」と回答した生徒の割合は、いずれも市・県より数ポイント以上低い。また、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」と回答した生徒の割合も低く、ネット等の活用ツールを自分を生かしたり成長につなげる使い方をさらに指導するとともに、探求心や根気よく取り組む力を育てたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」と回答した生徒の割合が低い。思考による問題解決力に課題があり、授業に書く作業を取り入れていく必要がある。

○「毎日の生活が充実していると感じている。」と回答した生徒の割合は高い。

●「誰に対しても、思いやりの心をもって接している。」と回答した生徒の割合は、特に学力の下位層において県・市より10ポイントも低い。周囲に視野を開き、他人の思いを考えさせる機会を学級活動等で作っていきたい。

○「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」は県・市より7.1ポイントも高い。今後も継続したい。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」と回答した生徒の割合は高い。

●「家で、学校の授業の予習をしている。」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と回答した生徒の割合は低い。宿題は計画的に行っているが、宿題以外に行っていない。家庭学習ノートを宿題か、それ以外ととらえているかは不明だが、家庭学習ノートでの効果的な学び方を指導していききたい。

・各教科の好き嫌い、テスト結果、その教科の将来での大切さの高さは必ずしも一致しない。好きに越したことはないが、それを越えて成果を出すこと、その大切さを認識することはとても重要なことである。今後とも好きになる工夫はしつつも、意味ある将来につながる学習および成果の定着に向けた授業づくりを進めていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
振り返り活動と連携させた家庭学習ノート学習	毎日1ページ以上自主学習をする「家庭学習ノート」に取り組ませている。その日の授業の振り返りまたは復習の方法を具体的に指導し、どの教科について何を復習として取り組むのかを各自決定して、目的をもって行うよう、全職員で共通理解をして取り組ませる。	生徒質問紙調査の中で「家庭学習力」の平均スコアが一番低く、県よりも2.1ポイント、市よりも1.8ポイント下回っている。特に、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」に対する肯定的回答割合は県よりも7.2ポイント、市よりも9.4ポイント下回っている。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」に対する肯定的回答割合も、県よりも3.5ポイント、市よりも3.9ポイント下回っている。
生徒のやる気を喚起する授業の工夫	生徒が課題解決の達成感を得られる工夫をし、学ぶ意欲の向上につなげていく指導を研究する。 ○校内研修として、ペアやグループなどの学習形態を工夫しながらの学びあい活動を授業に取り入れた授業研究会をおこなう。 ○教科部会において、基礎・基本事項の十分な理解をベースとしながらも、生徒の興味・関心を高める授業の工夫を話し合い、共有する。	○生徒質問紙調査において、上位層と下位層の差が大きい項目が目立つ。 「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」に対する上位層と下位層の差は23.9ポイント。 「疑問や不思議に思うことはわかるまで調べたい。」に対する上位層と下位層の差は30.4ポイント。 「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」に対する上位層と下位層の差は24.0ポイント。 「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」に対する上位層と下位層の差は23.9ポイント。